

『紡ぐ』

2021.11.1 第30号
発行 教育相談室「あした塾」

投稿

故郷あなみ

私は誇りを持っています

彦根市
飛奈久美子

私が穴水を離れて40年余り経ちました。

春夏秋冬の長期休暇中、田植え、稲刈り、そして冠婚葬祭などで、一年に数回、帰省しています。大阪の友人に「穴水ってどんなところ？」と聞かれました。「自然がいつだって、時間がゆつたりと流れる癒しの町」と答えます。彼女の期待するものは存分に知りませんが、私はそんな穴水に誇りを持っています。わが家の子も水は穴水が大好きです。過疎化が進んでいる問題はありますが、このコロナ禍の中で働き方も変わってきています。穴水に戻って来る人も穴水に移住して来ようとする方が増えていると思います。

時おり、穴水音頭を口ずかしています。

(飛奈さんは穴水明千寺出身の方です。)



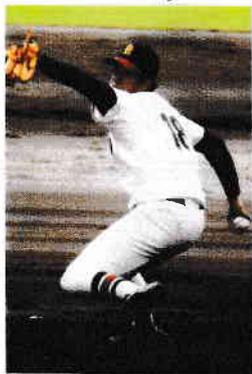
(諸橋 明千寺地区)



(諸橋 宇加川地区)

2人の70

投手が 松井友哉

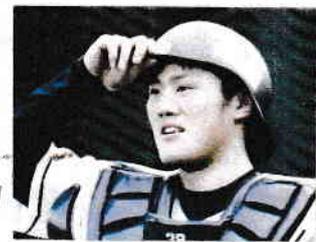


(70年代野球部顧問)

10月11日に行われたプロ野球ドラフト会議で、穴水中学校、穴水高校、金沢学院大学と進んだ松井友哉選手が東北楽天から1位指名されました。中学校、高校と素晴らしい活躍を続けた松井選手。その後の出逢

いと松井選手は努力で自分の道を切り開いてくれたのです。これ、穴水出身のプロ野球選手は、先づ西武ライオンズに入団している牧野翔矢選手に続き2人目です。友哉はプロ3年目の今季、打率.2割7分2厘、打点8、本塁打1の好成績を残しています。1、2年と比較、打率を上げてきているのです。

この日は2人はライバルです。競い合って一日も早く一軍入ります。



(西武ホームページより)

能登の空にトキを！



立山連峰を背に穴水湾を七海方面から乙ヶ崎の工場に向かいトキの「能登ちん」を思い浮かべて写真を作りました。
(能登トキファンクラブ世話会代表 宮下源一郎)

「能登トキファンクラブ」のHPを見てください。
nototoki.moo.jpです。
そして、ぜひ会員として登録して下さい。

トキの保護活動には 石川村の本義雄さん(96)や金沢の岡本孝二さん(75)が尽力されています。新潟県が「佐渡トキファンクラブ」は様々な活動を展開しています。

「能登トキファンクラブ」を設立

穴水町乙ヶ崎の宮下源一郎さんが中心となり「能登トキファンクラブ」を設立しました。

1929年(昭和4年)に眉丈山でトキが殺されたことから能登半島にトキが生存していることがわかったことです。

その後、輪島市洲衛(現)や穴水町七海のアカマツ林で繁殖が確認されました。しかし、1970年(昭和45年)に本州最後のトキ(能登ちん)が穴水町で捕獲され、佐渡に移送されたあと亡くなりました。トキは絶滅しました。

今年「能登ちん」が亡くなった50年の節目です。

穴水町はトキの本州最後の生息地でした。この能登の地に再びトキが舞うことを願い、それが実現できるよう「能登トキファンクラブ」を設立し、宮下さんはその意義を理解していたとき、多くの方の力を借りたいと話しています。



(資料写真)

連絡先 穴水町乙ヶ崎 宮下源一郎
TEL 07681521903

感謝メッセージボード

能登北部地域ボランティア

能登北部地域ボランティア連絡会(輪島・珠洲・能登・氷川)では、各市町の医療従事者の皆さんを応援するメッセージボードを作成し、病院にお渡しする取り組みをしています。穴水町では各ボランティア団体、中学生、高校生の協力を得て写真のようなボードを作成し、穴水総合病院へ渡してきました。日々を以て頑張ってください。



10月13日、島中院長にメッセージボードを渡しました。滝井ボランティア連絡会社協の関原 橋本氏同行。